

宮城県さけます増殖協会

知事・県議会議長への要望書提出関係資料

Ver.10

令和3年12月16日

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書提出先

令和３年１２月１６日

○ 宮城県知事 村井 嘉浩 殿

以下、知事あて要望書写しを配布

宮城県水産林政部長 佐藤 靖 殿

宮城県水産林政部副部長 高橋 義広 殿

宮城県水産業基盤整備課長 佐藤 崇 殿

○ 宮城県議会

議 長 菊地 恵一 殿

○ 農林水産委員会

委員長 村上 久仁 殿

○ 自由民主党・県民会議水産漁港議員連盟

会 長 佐々木 喜藏 殿

以下、会長あて要望書写しを配布

副会長 本木 忠一 殿

顧 問 畠山 和純 殿

幹事長 守屋 守武 殿

事務局長 高橋 宗也 殿

事務局次長 櫻井 正人 殿

事務局次長 柏 佑賢 殿

宮城県への要望

宮城県さけます増殖協会要望書提出 出席者名簿

令和 3 年 1 2 月 1 6 日 (木)
1 7 : 1 5 ~ 1 7 : 3 0
宮 城 県 庁 舎 4 階 庁 議 室

要望者

宮城県さけます増殖協会

会長理事 ^{あつみ いわお}
渥美 巖
鳴瀬川水系さけます増殖協会 会長

副会長理事 ^{てらさわ はるひこ}
寺沢 春彦
宮城県漁業協同組合 代表理事組合長

理事 (代) ^{かんの こういち}
管野 幸一
気仙沼市大川水系さけます増殖協会 副会長

理 事 ^{さ さ き たけお}
佐々木 武雄
北上川水系さけ・ます増殖協会 会長

監 事 ^{きくち みきひこ}
菊地 幹彦
宮城県漁業協同組合仙南支所 (巨理) 運営委員長

副会長理事 ^{さ さ き しげき}
佐々木 茂樹
石巻魚市場株式会社 代表取締役社長

理 事 ^{さ さ き たかお}
佐々木 孝男
志津川湾水系さけます増殖協会 会長

理 事 ^{かつまた じろう}
勝又 二郎
追波川水系さけ・ます増殖協会 会長

事 務 局 ^{ながしま ひろし まつうら りょう よしだ もとひさ}
永島 宏 松浦 良 吉田 素久

自由民主党・県民会議 水産漁港議員連盟

会 長 ^{さ さ き きぞう}
佐々木 喜藏

副会長 ^{もととき ちゅういち} 顧 問 ^{はたけやま かずよし}
本木 忠一 畠山 和純

幹事長 ^{もりや もりたけ} 事務局長 ^{たかはし しゅうや}
守屋 守武 高橋 宗也

事務局次長 ^{むらかみ ひさ と} 事務局次長 ^{さくらい まさと}
村上 久仁 櫻井 正人

事務局次長 ^{かしわ すけかた}
柏 佑賢

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望

令和3年12月16日(木)
17:15～17:30
宮城県庁4階庁議室

次 第

1 開 会

2 要望書手交

3 出席者紹介

4 要望者：宮城県さけます増殖協会 渥美巖会長理事

あいさつ・要望概要説明

5 知 事 あいさつ・回答

6 意見交換

7 閉 会

令和2年12月21日

宮城県知事

村井 嘉浩 殿

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書

宮城県さけます増殖協会

令和3年12月16日

宮城県知事

村井 嘉浩 殿

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書

宮城県さけます増殖協会

令和 3 年 1 2 月 1 6 日

宮城県知事

村井 嘉浩 殿

〒985-0812

宮城郡七ヶ浜町松ヶ浜字浜屋敷 142 番地の 1

宮城県さけます増殖協会

会長理事 渥美 巖

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書

本県の秋さけ増殖事業は、「つくり育てる漁業」の先陣として、昭和 52 年度から官民の関係者が一体となって、弛まぬ努力を続けて参りました。その成果が結実し、平成 20 年度には秋さけの来遊数が 340 万尾となり、水揚げ金額も 35 億円を超えて、本県のつくり育てる漁業の模範として高く評価され、秋期における海面漁船漁業の基幹漁業になると共に、内水面漁業関係団体の経営基盤として定着し、水産宮城の一翼を担うまでになりました。

このことは、その先頭に立って指導してこられた宮城県のご尽力の賜であり、心から感謝する次第です。

一方、近年の地球温暖化による東北太平洋海域の海洋環境の激変により、令和元年から 3 年続けて秋さけ来遊数が激減し、この未曾有の回帰低迷は沿岸漁業のみならず、水産加工業や流通に携わる関連

事業者にも広く深い影響を及ぼし、地域経済に深刻な打撃を与えております。

本県のさけ放流事業は、宮城県方式として海面のさけ水揚げ金額の7%を協力金として事業経費に充当しており、重要な財源となっていますが、令和元年からの沿岸来遊数の激減により、海面からの水揚げ協力金が大幅に減少したことから、当協会による知事要望で稚魚買上単価の値上げを実現して、金額ベースで2千3百万円の買上増を図ったことや、協会の積立金2千2百万円を取り崩してふ化団体の経営支援金として支給したことにより、令和2年度は県内の15ふ化団体中5団体のみの赤字経営にとどまりました。しかし、本年漁期においては11月末までの来遊尾数は約3万6千尾（平成30年同期99万3千尾の4%弱 令和2年同期17万6千尾の20%）と更に低迷が続き、県内多くのふ化団体が経営困難となる見込みであり、来年度以降も同様の回帰低迷が継続することにより、関係者一同深刻な不安を感じざるを得ない状況であることから、一部の団体はさけふ化放流事業からの撤退を検討し始めています。

ついては、この状況を踏まえ、下記の項目について速やかに支援していただけるよう要望いたします。

記

- 1 秋さけ来遊数の低迷期においても、さけ資源の維持を図る増殖事業が継続できるよう、県予算による内水面ふ化放流団体への経営支援について、より一層の配慮を願いたい。

2 来遊親魚数の低迷による採卵数不足に対応するため、種卵の確保と効率的なふ化放流が実施できるように、県の指導・支援をお願いしたい。

参 考

さけ稚魚放流実績

平成 30 年度 5 千 4 百万尾、令和元年度 2 千万尾、令和 2 年度 2 千 5 百万尾、
令和 3 年度計画 3 千万尾（見込みは 1 千万尾）



村井知事に要望書を手渡す当協会の渥美会長



意見交換の様子



記者の皆様の質問に対し回答する渥美会長

宮城県議会への要望

宮城県さけます増殖協会 宮城県議会への要望書提出 出席者名簿

令和 3 年 1 2 月 1 6 日 (木)

1 6 : 3 0 ~ 1 6 : 4 5

宮城県議会庁舎 3 階議長応接室

県議会

議 長

きくち けいいち
菊地 恵一

農林水産委員会委員長 村上 久仁

自由民主党・県民会議 水産漁港議員連盟

会 長 ささき きぞう
佐々木 喜藏

副会長 もとき ちゅういち 顧 問 はたけやま かずよし
本木 忠一 畠山 和純

幹事長 もりや もりたけ 事務局長 たかはし しゅうや
守屋 守武 高橋 宗也

事務局次長 さくらい まさと 事務局次長 かしわ すけかた
櫻井 正人 柏 佑賢

要望者

宮城県さけます増殖協会

会長理事 あつみ いわお
渥美 巖
鳴瀬川水系さけます増殖協会 会長

副会長理事 てらさわ はるひこ
寺沢 春彦
宮城県漁業協同組合 代表理事組合長

理事 (代) かの こういち
管野 幸一
気仙沼市大川水系さけます増殖協会 副会長

理 事 ささき たけお
佐々木 武雄
北上川水系さけ・ます増殖協会 会長

監 事 きくち みきひこ
菊地 幹彦
宮城県漁業協同組合仙南支所 (亘理) 運営委員長

副会長理事 ささき しげき
佐々木 茂樹
石巻魚市場株式会社 代表取締役社長

理 事 ささき たかお
佐々木 孝男
志津川湾水系さけます増殖協会 会長

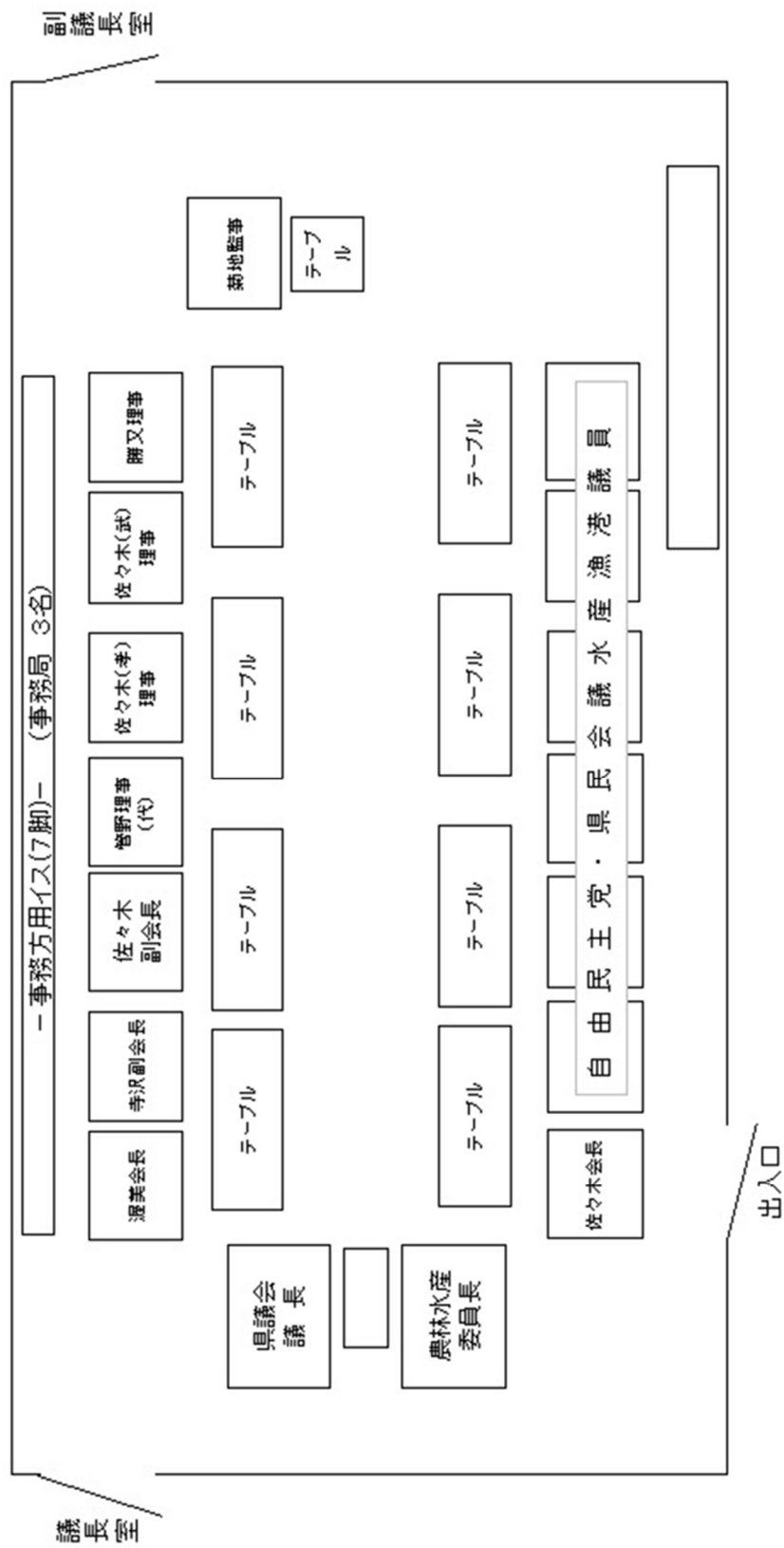
理 事 かつまた じろう
勝又 二郎
追波川水系さけ・ます増殖協会 会長

事 務 局 ながしま ひろし まつうら りょう よしだ もとひさ
永島 宏 松浦 良 吉田 素久

議長応接室座席表

日時:令和3年12月16日(木)16:30 ~ 16:45

場所:宮城県議会 議長応接室(議会庁舎3階)



令和3年12月16日

宮城県議会
議長 菊地 恵一 殿

宮城県農林水産委員会
委員長 村上 久仁 殿

自由民主党・県民会議水産漁港議員連盟
会長 佐々木 喜藏 殿

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書

宮城県さけます増殖協会

令和 3 年 1 2 月 1 6 日

宮城県議会議長
菊地 恵一 殿

宮城県農林水産委員会
委員長 村上 久仁 殿

自由民主党・県民会議水産漁港議員連盟
会長 佐々木 喜藏 殿

〒985-0812

宮城県七ヶ浜町松ヶ浜字浜屋敷 142 番地の 1

宮城県さけます増殖協会

会長理事 渥美 巖

秋さけ増殖事業の安定化に係る要望書

本県の秋さけ増殖事業は、「つくり育てる漁業」の先陣として、昭和 52 年度から官民の関係者が一体となって、弛まぬ努力を続けて参りました。その成果が結実し、平成 20 年度には秋さけの来遊数が 340 万尾となり、水揚げ金額も 35 億円を超えて、本県のつくり育てる漁業の模範として高く評価され、秋期における海面漁船漁業の基幹漁業になると共に、内水面漁業関係団体の経営基盤として定着し、水産宮城の一翼を担うまでになりました。

このことは、その先頭に立って指導してこられた宮城県のご尽力の賜であり、心から感謝する次第です。

一方、近年の地球温暖化による東北太平洋海域の海洋環境の激変により、令和元年から３年続けて秋さけ来遊数が激減し、この未曾有の回帰低迷は沿岸漁業のみならず、水産加工業や流通に携わる関連事業者にも広く深い影響を及ぼし、地域経済に深刻な打撃を与えております。

本県のさけ放流事業は、宮城県方式として海面のさけ水揚げ金額の７％を協力金として事業経費に充当しており、重要な財源となっていますが、令和元年からの沿岸来遊数の激減により、海面からの水揚げ協力金が大幅に減少したことから、当協会による知事要望で稚魚買上単価の値上げを実現して、金額ベースで２千３百万円の買上増を図ったことや、協会の積立金２千２百万円を取り崩してふ化団体の経営支援金として支給したことにより、令和２年度は県内の１５ふ化団体中５団体のみの赤字経営にとどまりました。しかし、本年漁期においては１１月末までの来遊尾数は約３万６千尾（平成３０年同期９９万３千尾の４％弱 令和２年同期１７万６千尾の２０％）と更に低迷が続き、県内多くのふ化団体が経営困難となる見込みであり、来年度以降も同様の回帰低迷が継続することにより、関係者一同深刻な不安を感じざるを得ない状況であることから、一部の団体はさけふ化放流事業からの撤退を検討し始めています。

ついては、この状況を踏まえ、下記の項目について速やかに支援していただけるよう要望いたします。

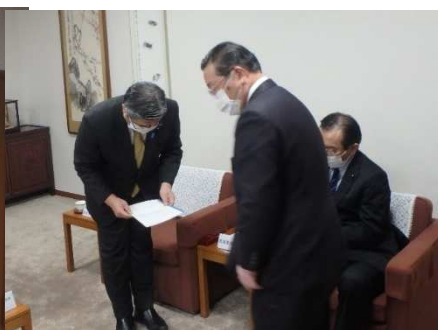
- 1 秋さけ来遊数の低迷期においても、さけ資源の維持を図る増殖事業が継続できるよう、県予算による内水面ふ化放流団体への経営支援について、より一層の配慮を願いたい。
- 2 来遊親魚数の低迷による採卵数不足に対応するため、種卵の確保と効率的なふ化放流が実施できるように、県の指導・支援をお願いしたい。

参 考

さけ稚魚放流実績

平成 30 年度 5 千 4 百万尾、令和元年度 2 千万尾、令和 2 年度 2 千 5 百万尾、
令和 3 年度計画 3 千万尾（見込みは 1 千万尾）

要望書手交の様子



要望書を受け取る村上委員長

要望書を受け取る石川議長



要望書を受け取る佐々木会長



要望書手交の様子

未曾有の秋サケ不漁で
宮城県さけます増殖協会
ふ化放流事業困難に

可欠と、経費増を要望。具体的には、「県予算による内水面放流団地への経費増は」「種別確保と効率的な放流に向けた県の指導と支援」を求めた。

村井知事は、県としても支えていかなければならないと、国への対策の働き掛けや、棚田確保により一層水を入れた」などとした。

選挙会長は、協会でも稚魚をより大きく育てて販売しつづける、放流の時期をずらしたり、「稚魚の生産性を高める可能性を探り、不放流を今後も継続するようにしたい」と話していた。

県内不漁 温暖化影響か

県庁によると、サケは
 外洋を回遊する習性があり、放流された川におそ
 3、4年をかけて戻る。県
 内の来遊数と稚魚放流数の
 推移はグラフの通り。東目
 本大震災時の来遊数は3
 0万匹を超えていたが、震
 災で沿岸のふ化場が被災。
 来遊数、放流数共に一時的



旧の秋林紅市遊藝と研会校演藝